



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラク情勢：ムバーラク港問題ほか

(19日付サバーハ紙)

19日付イラクのサバーハ紙は、イラク情勢について、次のように報じている。

1. イラク・クウェイト間の懸案

- (1) クウェイト国民議会議員による（イラク）要人らに対する敵対的態度、およびイラク国境付近におけるワレバ原子力発電所建設開始が近づいていることに関する情報がある中で、クウェイトの議員らの声明およびクウェイト紙の攻撃による（二国間関係の）収縮は両国の利益にならないとして、クウェイト側との懸案事項への対処において、理性によるコントロールが必要とのイラク国会議員等による呼びかけの聲が高まっている。
- (2) クウェイト国民議会のムスリム・アル・バラーク議員は、ムバーラク港建設のためにマーリキーやその他の者からの許可を得る必要はないと述べ、同港に関するムトラク副首相の声明（注：現在の予定地へのムバーラク港建設は、イラクに対する嫌がらせであり、黙っていることのできないレッド・ラインであるとする、7月6日の声明）を独裁者のサッダームがクウェイトに侵攻する前の脅しに例えた（アル・ワタン紙を引用）。
- (3) ジェフリー駐イラク米国大使は、イラク外務省が開催する在外イラク大使を招集した会議において、イラク・クウェイト間の問題を解決するため、米国は仲介の用意があると強調した。

2. イラン軍によるイラク国境地帯への砲撃

- (1) エルビル県北東部ワイザ村のアブドゥッラー・ハマド村長の発言
 - ・ 18日、同村の約30家族がイランによる砲撃を受け避難した。
 - ・ 本件への介入および避難民への避難所供給を求めるべく、チョマーン地区行政機関に同家族の避難を通報した。
- (2) スレイマーニーヤ県バジュダル地区のハサン・アブドゥッラー地区長の発言
 - ・ 17日、イランは同地区のベルカファルおよびスーニーを砲撃し、同砲撃により、負傷者および避難民が発生した。
 - ・ 国際機関およびクルディスタン地域政府に対し、避難民への避難所と支援の提供を求める。
- (3) スレイマーニーヤ県議会安全・防衛委員会の発表（18日）
 - ・ 同委員会は真相究明のために、6名の同委員会委員を20日にイラク・イラン国境地帯に派遣する予定である。